

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400047		
法人名	特定非営利活動法人 リスペクト		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 碧水		
所在地	雨竜郡北竜町字碧水15番地2		
自己評価作成日	令和5年9月29日	評価結果市町村受理日	令和5年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhllw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0197400047-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ひとりひとりに家庭的な環境の中で、なじみのある昔ながらの生活をホームでも送っていただけるように、その人その人に合わせた居室環境や生活のリズムなどの背景をしっかりと考え、安心して毎日の生活を送れるような支援を心掛けています。また、市役所や近隣の地域住民、企業の方との連携を図り、SOSネットワークを利用して緊急時や異変時に速やかに対応できる環境の構築をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は特定非営利活動法人が運営するグループホームで、平成20年11月にA棟1ユニットで開設し、平成28年4月にB棟1ユニットを増設して現在2ユニットの木造一部2階建てとなっています。令和5年度は地域に密着したSOSネットワークを構築し行政関係・警察・町内会・近隣住民・郵便局・タクシー会社等と協働することを目指しています。入居者が入居後の閉塞感を取り除くため入居前の生活がなるべく変化しないように、家庭では自由に過ごせていた環境を事業所ではどう実現可能にしていくのかを追求しようとしています。体力・気分転換・仲間の昔の居住地見学・個の満足に繋がるように考え、認知症の進行を遅らせるように個々のできた感を職員は見守り、ありがたい感謝の言葉と共にできない事はさり気なく支援するように心掛けています。楽しみややりたいこと郷愁を覚えるお祭り、食のイベントなど利用者の楽しみとなるように企画しています。月1回の写真を多く載せたお便りや利用者一人ひとりの受診や生活状況を記載したものが送られ家族の安心や信頼に繋がっています。利用者が生き生きと自由に過ごせやりたい事が出来る環境を管理者、職員は日々悩みながら取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰にでも一目でわかるように掲示して、棟内でも年度ごとに取り決め共有し、実践していけるように心掛けている。	理念は目のつきやすい場所に基本理念と共に統一したユニット目標を掲示しています。利用前の生活が継続できるように配慮し認知症進行を遅らせるように支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の流れもあり、毎年恒例の地域住民参加の行事は中止していましたが、5類に移行にともない、今年は町内の神社のお祭りに参加し交流を図っている。	地域のお祭りやイベントに参加をしています。散歩では近隣住民と利用者との会話や笑顔の交流があります。令和5年度はSOSネットワークを活用し安心して暮らすことが出来る地域づくりが進行しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りや、外でのイベントを通じて地域の方々に触れることで、認知症の方への理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の流れが5類に移行にともない、施設での開催し、利用者、施設での出来事、現在のサービスへの助言、今後の課題などを話し合いを行っています。	偶数月で開催し運営推進員、家族代表・町内会長・行政担当職員・地域包括センター職員に参加を得て利用者状況・行事報告・ヒヤリハット・事故報告等を行っています。利用者様子をスライドで紹介する試みを行っています。	運営推進会議は様々な意見を基に健全な運営が図れることから会議内容の周知と理解を得るために家族全員と情報を共有する方法を模索する事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地元の地域包括センターの担当者となにかあるたびに常に連携を図り、入退所をはじめ、地域活動の協力方法、現在のホームの実情などを相談し対応してもらっている	運営推進会議の参加を頂きながら事業所の理解・周知を行い、わからない点などは担当者に直接アドバイスを受けてたりSOSネットワークの相談をするなど良好な関係構築を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修を行い、時にはビデオを利用しての研修を行っている。各職員が統一した認識をまだ持っていない事もあり、今後も勉強会、身体拘束廃止委員会を通じて取り組みを行っていく。	身体拘束廃止委員会は年4回、管理者・主任・介護職を含めた委員会が開催されています。併せて2回の研修、人と認知症の権利を皆で考える・身体拘束ゼロスピーチロックを実施しています。今年度は医師に相談しながら問題行動の利用者に対して管理者をはじめ職員が健闘した結果利用者が奮起し自力で解消した事例が報告されるなど身体拘束ゼロに向けて取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、身体的虐待、職員の声掛けの内容での言葉の虐待を含め職員同士注意し合い節度を持った対応をするように心掛けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がおり、ご家族とともに1から成年後見制度を管理者、スタッフとともに勉強する機会があったが今後も必要そうな方へ活用出来るように知識を深め、今後も勉強会などを行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の変更などがあった場合は、電話や変更の文言の書いた書類の送付など、その都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から、意見、要望、苦情などがあった場合は管理者を筆頭に職員で話し合いを行い、運営推進会議の際や地域の地域包括の担当に状況を相談し、解決にむけて話し合いを行っていく。	家族との面会は居室で15分内で2名までの面会を実施しています。希望や要望は電話や面会の際に聞き取り職員全体の情報共有に努め可能な限り実現出来るように支援しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、各棟の主任、看護師、事務員、施設長、管理者、理事長などで構成される運営会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	職員は3名ほどの利用者を担当しており、月1回のユニット毎の会議で、イベントなどを考案し利用者本位となるように意見交換を行っています。管理者は職員の不安や不満などを聞きストレス解消に努めています。	職員のニーズ、一人ひとりの力量に合わせた研修を行いケアの質の向上を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度、各棟の主任、看護師、事務員、施設長、管理者、理事長などで構成される運営会議を行い、勤務状況などを話し合っている。またその都度、職員個々に相談対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルの向上のため、法人内での研修を実施している、今後はコロナの状況、職員の力量をみながら法人外での研修を増やしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域にある特別養護老人ホームにて、研修会があり、その中で勉強しながら職員同士での交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望初期の面談の中でご本人からできるだけ細かな情報、要望を引き出せるように心がけています。また、入所され日々の生活の中から不安なこと、要望等を傾聴し本人との関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望初期の面談の中でご家族からできるだけ入居希望の方の細かな情報、ご家族の要望を引き出せるように電話連絡を密にとるなど、心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で、入居希望のご本人とご家族の要望や支援内容をしっかり傾聴し、自施設含め他の施設、サービスの情報の提供を行い、ご本人にあったサービスの提供を行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1年を通し日々の生活、季節ごとの行事を楽しみながら共に過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当者からご家族に、受診や生活状況のお手紙とフォトにより詳しくご本人の様子をお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況に合わせて、現在は時間、人数制限つきで面会を可能にしています。また、外出も時間制限つきではありますが可能にしているので、ご家族、家に帰られ馴染みの生活を送られたりされている。	面会制限や事前予約が必要ですが家族、知人と居室で面会しています。家族の希望でお墓参りを行っています。馴染みの美容室等の支援や2ヶ月に1回の理容師訪問もあります。パークゴルフ大会に参加し友人と競技を楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ皆さんが、和やかな雰囲気、過ごせるように、個々の関係を円滑にできるように、必要に応じて職員が間に入り対応するなど配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば、可能なかぎり対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人との会話の中で理解し、情報の共有、検討に努めている。	利用前の生活を変化させないように個々の支援を重視しており、一人ひとりの能力を見極め出来る事の維持に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの情報収集とともに入所後も会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体、精神状況の変化や、生活の様子を詳しく記録に残し共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、ケア会議の場を持って、ご本人の状況に添った介護計画を作成しているが、ご本人やご家族の同席はなく、書類での意見や要望になっている。	6ヶ月に1回の見直しを行い、日誌に利用者の目標をチェックし確認できるようになっており、ユニット毎のカンファレンスでは担当者がアセスメントし、会議で職員全員で協議し本人・家族の意向に沿って介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を詳しく記録、職員間で共有し、計画の見直しやケア内容の変更の時にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズや要望は、状況に合わせて対応できるようにその都度検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	5類に移行したが、コロナ禍の影響で地域のコミュニティの参加がむずかしい状況が続いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される医療機関を主治医としている。医師にはその都度状態をくわしく伝え、適切な処置、処方をしてもらっている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医は事業所が支援しています。週1回の看護職員により各ユニットの利用者の健康管理が行われ職員が受診の様子等を記録し家族に毎月送付し安心に繋がっています。2ヶ月1回の理学療法士による基本動作機能の回復、維持の支援に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の勤務ですが、看護師と常に連携を図り体調の変化や急変時など連絡を密にとり、対応相談、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	各病院の連携室から情報交換を行い早期退院に向けて相談を努めている。また、病院の療法士に定期的に来訪してもらって指導してもらっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていないが、重度化し施設での生活が困難になった場合にどこまで対応できるか本人の状態を見ながらご家族とも十分に話し合いを行い、主治医の指示のもと支援している。	現在医療機関の体制が整っておらず看取りは行っていませんが、重度化や終末期における家族・本人への説明は利用前に説明しており理解を得ています。重度化が進行した場合には近隣の施設とも連携し主治医の指示のもと事業所のできる範囲で家族や本人の意向に沿いながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の初期対応として、年に一度、救急救命の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応マニュアルを周知し行動をとっていき、また定期的に消防職員の指導のもと火災、避難訓練を行い緊急時に備えている。	年2回消防立会いのもと昼夜間想定で連絡・初期消火・避難誘導を行っています。地域の方には見守りを依頼しています。令和5年雷で数回一時停電しましたが自家発電機が設置されており利用者・家族の安全・安心に繋がっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の場面場面で口調や、尊厳をそこねない声掛けなど工夫しているが、時折、適さない声掛けになることがみられた際は、職員同士で注意しあい考えながら気をつけています。	基本苗字で○○さん付けで呼んでいます。利用者の尊厳に配慮した声掛けを管理者は職員に指導しています。家庭的な雰囲気を壊さないような配慮と職員の名前を家族に覚えて頂くように玄関に顔写真入りの職員紹介を貼っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や昔ながらの生活の背景、声かけの中から本人の思い希望を読み取り、自己決定を出来るように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者個々の生活のリズムを大切に押し付けにならない様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等、ご本人が選べる方は、着たい衣服等を選択してもらっています。また、付き添いを行い季節にあう衣類を一緒に決めながら対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事の時には、入居者と職員で調理をして一緒に食しています。茶碗拭きやテーブル拭きなども職員とともにされています。	食事の前には必ず口腔体操を行い誤嚥予防を行っています。食事は栄養のバランスの取れた配食サービス(朝食・昼食)を、夕食は職員が利用者の嗜好に配慮した献立を提供しています。キッチンカーのラーメンやウナギの出前、パンバイキングパーティーなどバラエティーに富んだ食事を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックし把握している。状況により水分量を増やしたり、食べやすい食事形態にしたり、食器等を変えるなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日に3回ほど口腔ケアを実施し、それぞれご本人の能力に合わせて声かけや見守り、一部介助など実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの毎日の排泄リズムを掴み、時間を考え、さりげなく声かけやトイレ誘導をおこなっている。	昼夜トイレでの排出を基本に見守り、自立に向け取り組んでいます。排泄チェック表を把握しながら声掛けを行い、失敗した場合は羞恥心を持たさないような声掛け等で素早く対処しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の料理や水分摂取の中でも工夫し、適度な体操や運動をすることで自然排便が出来るように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度は入浴日を決めてはいるが、その方の体調や気分、要望に応じて希望に添えるように支援している。	週2回を基本に、利用者の体調に配慮し利用者の希望に添う形で入浴を支援しています。ゆったりと入浴を楽しんで頂くために職員は利用者と良く会話をし本音や希望を聞き取るように心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昔ながらの生活リズム、習慣に合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳しい情報が書かれている書類をすぐに確認できる場所に保管し、理解に努めている。また、誤薬もないように職員複数で確認して、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日を過ごされる中で、個人の能力に合わせて、昔ながらの背景を組み取りながら趣味や役割などその方にあった楽しみを提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類に合わせ、ご家族との短時間の外出が可能となり、希望があれば外出されている。また、施設以前に住まれていた場所やスーパーへの買い物など行かれたり、季節ごとのサクランボ狩りなどイベントの外出もされている。	天気の良い日は散歩に出掛け、利用者は馴染みの方と談笑したり手土産に野菜をもらったりと笑顔で交流しています。馴染みのお祭りや文化祭に作品を出展しイベントの見学、サクランボ狩りや菜の花、ローズガーデンを見に行ったり畑作業をしたりと利用者の気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望があれば、大金でなければ自己管理していただいている。また、近所のコンビニエンスストアなど買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その都度対応し、支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の移り変わりがわかるように、季節ごとに、利用者、職員が貼り絵や置物(こいのぼり、節分、月見など)を作り、共用空間に置いている。その日の天気や気温に合わせて、採光や温度、湿度など居心地のよくなるように、エアコン、ストーブなど調整している。	四季を感じさせる飾り付けは職員と一緒に作品を作り壁に飾っています。また、クリスマスリースを作成したり利用者同志談笑し、脳トレや体操、カラオケ等をして楽しく過ごしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で食事がとれるように配置したり、TVの前にソファを配置し共用空間でも気軽に気の合う方同士リラックスできる空間の提供を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には、できる限り今まで使用されていた馴染みの家具や使い慣れている物を使用していただき、居心地の良い空間になるように心がけている。	事業所では各部屋には収納し易いクローゼットとその他洗面台などが設置され過ごしやすい環境を整えています。利用前に使用した馴染みの物を持ち込みその人らしい部屋となっています。また、携帯電話で家族や友人に電話をかけた家族に手紙を書いたりやりたい事、好きな事の生活動作を抑制しないように努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること、わかることを把握して、掃除がしやすいように空間を広めたり、調理がしやすい高さの場所を選んだりと自立にむけた家事の行いやすい空間の提供している。		